

指定管理者総合評価シート

施設名	坂田ヶ池総合公園		
指定管理者	NPO法人成田坂田ヶ池の友		
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日	～ 令和 8 年 3 月 31 日	1 年目
施設所管課	都市部	公園緑地課	

評価項目		評価基準	自己評価	所管課評価
I 実施体制に関する評価	施設管理	協定書等に従い、開館日や開館時間等を遵守しているか	A	A
	人員体制	仕様書等に従った人員(人数、有資格者)を配置しているか	A	A
		スタッフのシフトは適正であるか	A	A
		事業計画書に則した内容・頻度で教育・研修を実施したか	A	A
	利用料金	利用者からの料金徴収や現金管理等が適切に実施されているか	A	A
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切か	A	A
		外部委託事業者に対して協定書等を遵守させているか	A	A
	記録管理	業務日誌等を適切に作成・保管しているか	A	A
		点検、修繕等の履歴を適切に整備・保管しているか	A	A
	報告書提出	協定書等で定められた事業計画書・報告書等は提出しているか	A	A
	連絡調整	市や関係団体等との連絡調整を適切に行っているか	A	A
	危機管理	危機管理に関するマニュアルが整備され、定期的に訓練等を行っているか	A	A
		避難経路は適切に確保されているか	—	—
		事故、災害等の緊急時の連絡体制が確立されているか	A	A
	個人情報保護	個人情報等の管理は適切か	A	A
個人情報保護に関する規程が整備されているか		A	A	
情報漏えいを防止する仕組みや対応策が構築されているか		A	A	
情報公開	情報公開に関する規程が整備されているか	A	A	
	協定書等に従い、情報を適切に管理しているか	A	A	
その他				
【総括 I】	実施体制の履行状況に関する評価(標準 19 項目・本施設 18 項目)		A	
指定管理者の自己評価	実施体制は協定書に基づき適正に実施している。また、電気・水道・浄化槽設備等の委託事業者は施設に精通しており、問題なく適切に管理された。危機管理認識の向上を図るために、作業上の注意点、来園者の事故防止について研修会を開催した。所管課とは月1回の定例会議を開き直近の報告・課題を整理して業務の円滑化に務めた。			
施設所管課の評価	月に1度の定例打合せでは、日々の業務を記録した作業日報や作業写真の他、資料が適切にまとめられており、業務内容や公園の現状を明確に把握することが出来た。来園者の事故防止について研修会を開催し、危機管理を共有していることは評価できる。			

評価項目		評価基準	自己評価	所管課評価
II サービスの内容や水準に関する	利用者対応	施設の予約や利用等が、公平かつ適切に実施されているか	A	A
		言葉遣い、態度、服装等の接遇は適切であるか	A	A
	利用案内	ホームページは計画どおりに運用されているか	—	—
		利用方法をわかりやすく説明できる仕組みが構築されているか	A	A
	利用状況	施設の利用者数や稼働率は適正であるか	A	A
		利用促進に向け、積極的に取り組んでいるか	A	A
	事業の実施	事業計画書に則し、指定事業を実施しているか	A	A
		施設の目的に沿って、自主事業を実施しているか	A	A
		各事業の参加者数は、計画どおりであるか	A	A
		参加促進への取組を積極的に実施しているか	A	A
	環境への配慮	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされているか	A	A
	苦情等の対応	苦情や要望等に対して迅速かつ適切に対応しているか	A	A
	利用者への調査	利用者満足度調査を実施し、その結果は妥当であるか	A	A
		利用者からの意見や要望等について、可能なものは反映させているか	A	A
	維持管理	施設、設備の保守管理(点検・修繕)、定期清掃を計画的に実施しているか	A	A
日常の清掃、保安、警備は適切に実施しているか		A	A	
備品台帳により記録が適切に保管されているか		A	A	
市と指定管理者の備品が明確に区別されているか		A	A	
必要な修繕を適切に行い、市に報告しているか	A	A		
その他				

評価 する 評価	【総括 II】	サービス等の内容や水準に関する評価(標準 19 項目・本施設 18 項目)	A
	指定管理者の 自己評価	新型コロナウイルス感染防止の観点から、宿泊キャンプの利用制限をしたが、ディキャンプは通年どりの利用者があったため、野外ではあるが密にならないように、1サイトの利用人数を制限したり、隣同士を避けて利用させるなどの措置を講じた。自主事業は、自然観察会を開催しカブトムシを見つけたりして楽しんでくれた。	
	施設所管課の評価	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、宿泊キャンプの利用制限や自主事業を縮小せざるを得なかったが、指定管理者でテントサイトごとに人数制限を求める等工夫を行っていたことが評価できる。	

評価項目	評価基準	自己 評価	所管課 評価	
III 收支等 に関する 評価	経理事務	指定管理に関する経費と団体の経費を区別して、適正に管理しているか	B	B
		専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理処理を行っているか	A	A
		料金徴収、減免、還付の手続は適切に処理していたか	A	A
	予算執行	収支計画書に則し、適正に予算を執行しているか	A	A
		収支計画と事業計画の整合はとれていたか	A	A
	経費節減 その他	経費削減に向けた取組を積極的に実施し、その効果が上がったか	A	A
【総括 III】	收支等に関する評価(標準 6 項目・本施設 6 項目)	A		
指定管理者の 自己評価	毎日の経理事務は「現金・預金残高日報」を記帳して翌月上旬には会計事務所に提出し、月毎の決算書を作成している。また、予算執行は、施設の老朽化による破損等が多かったため修繕費の支出が増となったが全体経費として予算内で収めることができた。財政援助団体監査で指摘のあった指定管理に関する経費とNPO団体の経費を区別することについては、決算から区別することにした。			
施設所管課の評価	施設の老朽化により修繕工事が増加したが、市と連携し、適切に行えた。また、引き続き財政援助団体監査で指摘のあった指定管理に関する経費とNPO団体の経費を区別するよう改善を求める。			

評価項目	評価基準/目標は達成されたか	数値目標	自己 評価	所管課 評価	
IV 目標 管理に 関する 評価	目標①	多くの人に利用していただく(来園者数)	90000人/年・延	A	A
	目標②	イベントの実施	3回/年	A	A
	目標③	樹木に名札を取り付け、親しみやすい環境を作る	50本	B	B
	【総括 IV】	目標管理に関する評価(標準 3 項目・本施設 3 項目)	B		
指定管理者の 自己評価	新型コロナウイルス感染防止が求められているなか約93,000人が来園してくれた。これも日頃からの公園整備が滞りなく行われている結果だと感じている。イベントについては自然観察会のみ実施し虫や草花に興味を持ってもらった。目標②の回数について残り2回は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とした。園路際の樹木と花について名札を取り付けたりして散歩者に親しみを持ってもらうよう努めた。10本取付し残りは翌年度実施することに				
施設所管課の評価	新型コロナウイルス感染症拡大防止措置がなされ、キャンプ利用者や公園利用者への対応がなされている。イベントの実施について、ただ中止するのではなく、感染対策を考慮した事業の検討を望む。				

V	【総合評価】	I～IVの総括による総合評価	B
---	--------	----------------	---

VI 特記 事項	特に評価される点	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、テントサイトに人数制限を求める等の利用者の安全面により配慮していた。
	改善が望まれる点	引き続き財政援助団体監査で指摘のあった指定管理に関する経費とNPO団体の経費を区別するよう改善を求める。